

# 津 別 町

9331 支倉 賢吾

## 1. 歴史・概要

### 1.1 市町村合併・分村

津別町は北海道網走支庁管内の網走郡にある町。町名の由来は、アイヌ語の「トゥベツ」意味は「二つの川」あるいは「山の出鼻を通っている川」からきている。1919年美幌村（現 美幌町）分村し、津別村となる。そして1921年美幌村（現 美幌町）の一部を編入。1946年に昇格し津別町となる。津別町の現状としては、高齢化が進んでおり人口も減少傾向が続いている。その津別町は平成の大合併で本来は、津別町・美幌町・女満別町（現 大空町）・東藻琴村（現 大空町）の4町村で合併

する形を美幌町が中心となって目指し津別町民からの署名も多かった。ところが、この枠組みで法定協議会設置を可決したのは美幌町だけで、その他はすべて反対している。津別町・女満別町・東藻琴村が共通していたのは4町村の枠組みに網走市を含めての協議を求めることであった。この枠組みに美幌町が猛反対し枠を組むことが出来なかった。こうしたことを受け、津別町首脳はわがままを唱える美幌町との協議をあきらめ、あえて北見市との協議に半ば強制参加した。津別町は北見市とのつながるはあるものの、吸収されることもあって多くの住民が反対した。合併を果たせなかったことで依然厳しい財政状況が続いている。

### 1.2 まちづくりの特徴

そんな津別町は、昭和21年に町制施行して豊富な森林資源を背景とした農業、林業関連産業を中心に発展し昭和57年に全国で初めて「愛林のあるまち」を宣言した。2005年に北見市、常呂町、端野町、留辺蘂との合併協議から離脱し、自立の道を住民が選択、自主・自立のまちづくり「津別町自主・自立まちづくり構想」を策定し、町づくりを進めているところである。また、同じように環境保全型有機農業の推進と地域性の高い循環社会の構築を目指し、平成18年には「津別バイオマスタウン構想」を策定。現在津別町では町内から排出される廃棄物系バイオマス（家畜糞尿・生ごみ・樹皮・下水道汚泥）については、堆肥センターにおいて堆肥化し有機質資源として耕種農家を主体に農地還元し、生ごみについては一般家庭の自家菜園用として供給している。この計画の具体的成果目標としては、廃棄物系バイオマスの平成18年度利用率39%（炭素換算量）を平成21年度利用率99%（炭素換算率）になるように目指していること、未使用バイオマス（小麦ワラ・稲ワラ・林地

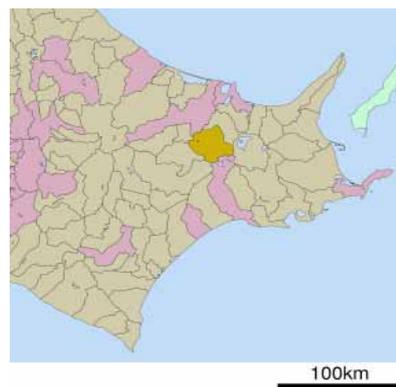
表1 津別町のデータ

面積	716,60km <sup>2</sup>
総人口	6,020人 (2008年)
市町村の花	スズラン
市町村の木	エゾマツ
人口密度	8.4人/km <sup>2</sup>

出典：日本百科事典

材木)の平成18年度利用率9%(炭素換算量)を平成21年度利用率62%(炭素換算量)になるように目指していることがある。森林資源の有効活用のため合板工場等から発生する残材を工場の発電に利用、今後の新たな活用としてチップ・ペレットの製造施設を導入し、町有林、道有林、国有林からでる未利用残材を活用し、年間発生する残材、約2万7千トンのほか、年間4千500トンが新たに発生するなど、ほとんど利用されていなかった残材をチップ・ペレットとして生産する予定だ。

図1 津別町の位置



## 2. 地理・気候

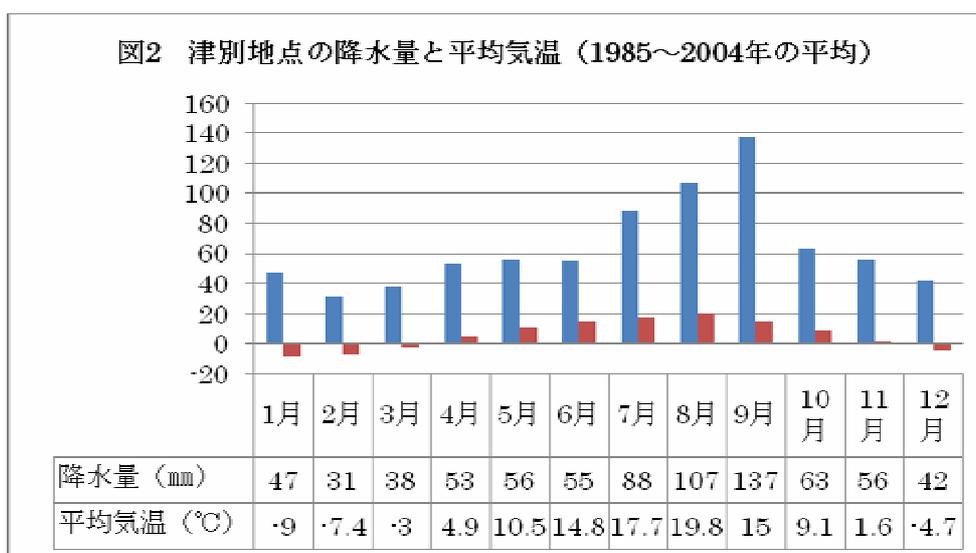
### 2.1 地理

津別町は北緯43度、東経143度にあり、北海道の東部のオホーツク海に面する網走支庁管内東南部に位置し、東西に37,2km、南北に34,1km、総面積716,60km<sup>2</sup>で全国でも屈指の広汎な町域を有しており、その86%を山林が占め、北部には扇状地が広がり農耕が盛んである。南部は山岳部で森林が広がり、扇状に広がる河川流域に大小21の農村集落が形成されている典型的な中山間地域である。美幌町南部に隣接し、釧路支庁に接する津別峠、釧北峠がある。

出典：フリー百科辞典ウィキペディア

### 2.2 気候

気候は道東地区、北見内陸気候帯に属しているため、夏は相当の高温になるが、冬はオホーツク海に比較的近いため寒さは厳しい。夏冬の寒暖の差はかなり大きく、年平均気温は約5,8度(1985~2004年)とかなり低い。また夏の7月や8月でも過去20年間の平均気温

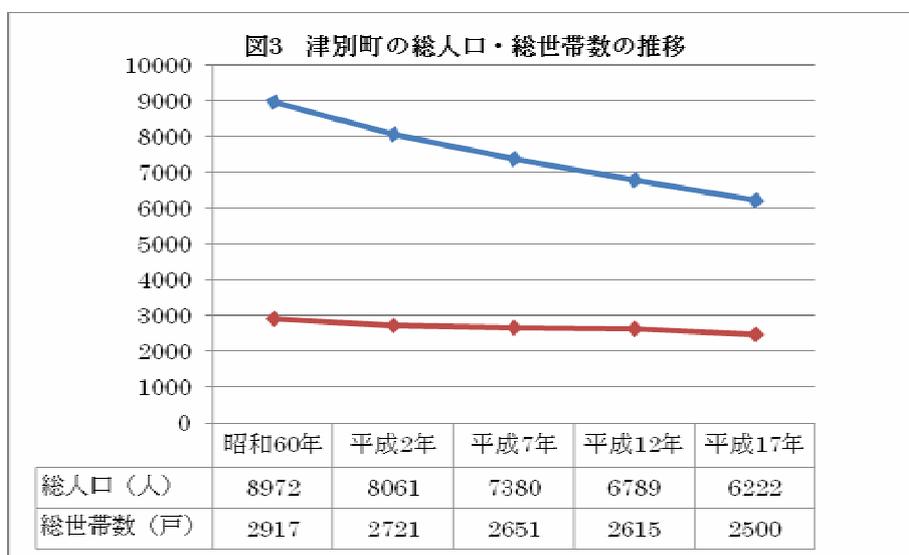


出典：オホーツク流域の自然状況

が20度にとどかなく、4月に入ってもまだ5度をきっているなど北海道の中でもかなりの寒冷地に属している。また降水量は過去20年間の平均雨量で100mmを超えているのは8月、9月だけであり、これは全国的に見ても少なく、年間降水量は890mm（2000年）、降雪量は499mm（1999年11月～2000年4月）で晴天の日が多く、日照率は全国有数をほこる。また、冬には気温が零下20度以下に下がることもあり、時折空気中の水分が凍結する現象（ダイヤモンドダスト）が見られる。

### 3. 人口・世帯数推移

津別町の人口は昭和36年をピークにそれ以降減少の一途をたどり、昭和55年には1万人を割り平成12年には6千人台と昭和45年当時のよそ半数となっている。また平成17年には6,222人、平成22年には5,765人と推計されている。また年齢別でみると、年少人口は平成2年には総人口（8061人）の16.7%だったが、平成16年には総人口（6668人）の11.7%まで減少している。この傾向は今後も一層進行するものと考えられ、平成22年には10.2%と推計される。一方で65歳以上の老年人口は、平成16年に総人口の31.8%と高齢化率がすでに3割を超えており、平成22年には36.3%と推計されているなど、今後もさらに深刻な状況が続くと思われる。



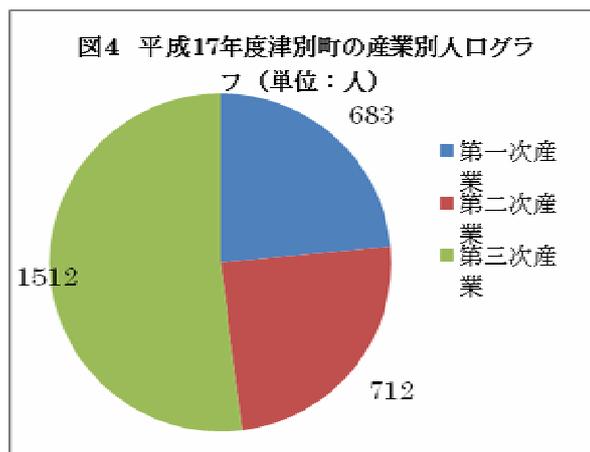
出典：オホーツク流域の社会状況

### 4. 産業・産業別人口

#### 4.1 就業人口

津別町における就業人口は第3次産業就業者（電気・ガス・熱供給・水道業6人、情報通信業11人、運輸業112人、卸売・小売業361人、金融・保険業38人、不動産業9人、

飲食店・宿泊業 120 人、医療・福祉 187 人、教育・学習支援業 87 人、複合サービス業 89 人、サービス業 321 人、公務 171 人) が 1512 人と圧倒的に多く、次いで第 2 次産業就業者(鉱業 1 人、建設業 180 人、製造業 531 人) が 712 人、第 1 次産業就業者(農業 611 人、林業 70 人、漁業 2 人) 683 人と続いており、総世帯数 2500 世帯のうち農家数が 209 世帯、林家数が 319 世帯と 2 つ合わせて全体の約 20%を占めている。



出典：津別町 HP (統計でみる津別)

#### 4.2 事業所の減少

そして津別町における事業所数の推移を見ると、昭和 61 年と平成 11 年の比較では総数で 110 箇所の事業所が減少しており、その中でも「農・林・水産業」「卸売業・小売業・飲食店」「製造業」といった業種が大幅に減少している。就労状況を見ても津別町の産業別人口の推移は、平成 2 年から平成 12 年までの 10 年間で 1 次産業、2 産業の減少が顕著となっている。その中でも減少の幅が大きい業種としては「林業・狩猟業」が 64,4% 減、「農業」が 30,3% 減、「製造業」が 28,9% 減となっている。

#### 4.3 農業・畜産業

津別町の農業は町総面積の約 8%が農用地で、その他多くが森林で占められている中山間地域であり農作物の総作付面積は約 5900ha で総家戸数は 310 戸、その内乳牛の飼養農家数は 46 戸で肉用牛の飼養農家数は 17 戸となっている。総農家数に占める割合でみると乳牛の飼養農家数が 17%、肉牛の飼養農家数が 5%となっている。農業粗生産額は約 58 億円で、そのうち畑作が 40 億円で全体の約 70%、畜産が 18 億円で全体の 30 パーセントを占めている。津別町の乳用牛飼養農家数は昭和 60 年度をピークに年々減少し、現在では搾乳農家数 28 戸で生産額は約 7 億円となっている。また肉用牛の生産状況は昭和 55 年より畜産基地建設事業を導入し、規模や飼

表 2 作付面積表

作物名	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
水稲	19.8	20	20.1
麦類	1046.83	1129.87	1229.26
雑穀	3.9	5.21	0.76
馬鈴薯	601.17	622.67	614.9
豆類	556.78	540.61	476.75
ビート	1136.33	1115.94	1115.85
野菜	493.93	480.57	481.35

出典：津別町 HP

養頭数が増加し、現在では飼戸数 17 戸で約 3 千頭を飼育している。経営形態は小麦・甜菜・馬鈴薯・豆類の耐冷作物を主体とした畑作を中心とした畜産・酪農が林業と並ぶ基幹産業として発展し、広大な農地で安全な食料の生産確保、地域経済・環境の維持のための農業生産体制の見直しに取り組んでいる。

#### 4.4 津別町の取り組み

特に、やさしい農業の推進を図るために有機・低農薬作物の生産技術の確立、畜産糞尿対策と土地づくり対策、廃プラ処理対策の確立など環境保全型農業の推進取り組みを進めている。その一環として、有機質施用による土地づくり対策として町が堆肥センターを設置し、主に家畜糞尿による堆肥化を図り、施用効果を計り、施用効果試験結果を耕種農家への利用推進に努めている。また、平成 16 年度より生ごみの分別処理を開始し堆肥センターにおいて生ごみの堆肥化を進めている。また、下水道汚泥についても平成 15 年度より堆肥化処理を行っている。耕地面積はほぼ横ばいで推移し、農業粗生産額は平成 8 年度から低下傾向にあったが、平成 14 年度から上昇に転じ徐々に回復している。

#### 4.5 課題

農家戸数、人口は少子高齢化が進むうえでますます減少することが推測され、農業に担い手、法人化による農家組織の育成が必要とされている。町内の基幹産業である林産業においては工場の減少や機械化による減少が進み、従業員数は平成 8 年に比べ 4 割減に近いものであるが、出荷額は平成 8 年の出荷額に回復している。

### 5 . 観光名所・イベント情報

#### 5.1 津別町観光入込客数

津別町の観光入込客数を見てみると、道外からの観光客は平成 18 年度と比べると増加しているもの、道内からの観光客や日帰り、宿泊客の減少が目につく。特に宿泊客は平成 18

表 3 津別町の観光入込客数

単位:千人、%

		上期計	下期計	年間合計	18 年度	対前年比
津別町	入込総数	105.5	34.2	139.7	177.1	78.9
	内道外客	29.5	9.8	39.3	32.5	120.9
	内道内客	76.0	24.4	100.4	144.6	69.4
	内日帰客	96.1	33.4	129.5	164.1	78.9
	内宿泊客	9.4	0.8	10.2	13.0	78.5
	宿泊客延数	9.6	0.8	10.4	13.8	75.4

出典：北海道 HP

年度と比べても減少しており、年間を通しても少数である。津別峠展望施設や鹿鳴の滝など観光客にウケが良いような名所が数多くあるにも関わらず、宿泊客が少ないのには原因があるだろう。100名収容のホテル、85名収容の旅館や少数でも宿泊できる民宿などがあり、宿泊施設や観光名所に関しては申し分ないが、それでも観光客数が伸びないのは地元PRが足りないのではないかと思われる。テレビのCMやインターネットの力を借りるなどして津別町の良いところ、見どころなどをもっと全面的に押し出していくことが必要だ。

## 5.2 イベント

津別には春から秋にかけて様々なイベントがあり、また数多くの観光スポットがある。イベントの1つとしては、毎年津別町で開催されている道々屈斜路津別線を走る津別紅葉マラソン大会がある。幼児から大人まで260人前後が参加し、遠くには東京都や埼玉県からの参加者もあり、津別の大自然の中で色づき始めた山々のコントラストを眺めながら自分のペースで走るスポーツの秋を満喫することが出来る。参加者には、参加賞および記録証が渡される。また、3位以上の人には“津別の木のレリーフ”が贈呈される。

図4 津別紅葉マラソン大会



出典：津別町 HP

## 5.3 観光名所

津別町の主な観光スポットとしては、野鳥観察舎やスポーツの森、森林学習展示館やチミケップ湖など自然を生かした施設や場所が数多く存在する。その中でも北見と釧路圏を結ぶ最短ルートにある道々屈斜路・津別線の少し上った所にある津別峠の展望台から見える景色はとても綺麗である。施設は中世ヨーロッパの古城をイメージした森の城郭があり眼下に広がる屈斜路湖を眺めると、その絶景に言葉を失う。湖水を守るかのようにそびえる山々の稜線、遠くにはオホーツク海、背には大雪山の山々が見える。またチミケップ湖の南岸端から約200m下流には鹿鳴の滝が7段の岩床の上を清流が流れている。

図5 津別峠展望施設



出典：津別町 HP

図6 鹿鳴の滝



出典：津別町 HP

## 参照 HP

- ・ 津別町 HP : <http://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/06kanko/20annnai/2007-1101-1148-2.html>
- ・ フリー百科事典ウィキペディア : <http://www.weblio.jp/content/%E6%B4%A5%E5%88%A5%E7%94%BA>
- ・ 北海道 HP : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop>
- ・ オホーツク流域の社会状況 :  
[http://www.mlit.go.jp/river/basic\\_info/jigyo\\_keikaku/gaiyou/seibi/pdf/abasiri-5-03.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/basic_info/jigyo_keikaku/gaiyou/seibi/pdf/abasiri-5-03.pdf)
- ・ オホーツク流域の自然状況 :  
[http://www.mlit.go.jp/river/basic\\_info/jigyo\\_keikaku/gaiyou/seibi/pdf/abasiri-5.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/basic_info/jigyo_keikaku/gaiyou/seibi/pdf/abasiri-5.pdf)
- ・ 日本百科事典 : [http://encyclopaedicnet.com/japan/ae/ae\\_a\\_c\\_122.html](http://encyclopaedicnet.com/japan/ae/ae_a_c_122.html)